

## ITUAJより

### 編集後記

近年、桜の開花は卒業シーズンに早まってきたものの、入社・入学と聞くと満開の桜が連想されます。

4月を迎え、新年度が始まりました。

小中学生の時には、席替え、クラス替え、担任の先生の異動がこの時期の大きな関心事でした。自分は年度替わり以外にも、引っ越しや通学区域の変更で小学校は3校に通いましたが、新しい環境や友人との出会いについては、不安より楽しみの方が大きかったように思います。

ICT技術は様々な分野に応用されていますが、本号では「ICTと婚活支援」を特集しました。出会いの機会を広げるマッチングアプリについて、背景と利用実態、課題と対策などについて、異なる立場から寄稿いただいています。

また、ITUジャーナル史上初めて、高校生（執筆当時）から寄稿いただき、ロボカップジュニア世界大会への出場についての記事も掲載しています。

どうぞご精読ください。

## ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら [https://www.ituaj.jp/?page\\_id=793](https://www.ituaj.jp/?page_id=793)

## 編集委員

- 委員長 亀山 渉 早稲田大学
- 委員 鈴木 勝裕 総務省 国際戦略局
- 西野 寿律 総務省 国際戦略局
  - 青野 海豊 総務省 総合通信基盤局
  - 山崎 浩史 国立研究開発法人情報通信研究機構
  - 井上 朋子 NTT株式会社
  - 中山 智美 KDDI株式会社
  - 大山 真澄 ソフトバンク株式会社
  - 薮 拓也 日本放送協会
  - 酒見 美一 通信電線線材協会
  - 長谷川一知 富士通株式会社
  - 森 正仁 ソニーグループ株式会社
  - 神保 光子 日本電気株式会社
  - 中平 佳裕 沖電気工業株式会社
  - 阿藤 友紀 一般社団法人情報通信技術委員会
  - 三木 啓嗣 一般社団法人電波産業会
  - 山崎 信 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
- 顧問 相田 仁 東京大学
- 新 博行 株式会社NTTドコモ
  - 田中 良明 早稲田大学

## 編集委員より

### 10年後の職場はどこか

NTT株式会社

井上 ともこ 朋子



最近、国際標準化の世界に足を踏み入れました。どうぞよろしくお願ひいたします。この業界に関わって早々に、人材不足・固定化が課題であり、官民挙げた対策が進められている状況を認識いたしました。そこで、私が以前身を置いていた2つの業界（いずれもグローバル人材が豊富でした）における採用や流動性の形を振り返ってみました。業界が違えば事情も異なりますが、お仕事の合間の「箸休め」程度にお読みいただければ幸いです。

1つは、ルールメイキングの場として共通点もあるオープンソースソフトウェア（OSS）業界です。技術者は自らの専門性と需要を見極め、会社の方針変更やヘッドハンティングを機に所属を変える「ジョブホッパー」が少なくありません。開発者会合のたびに所属企業が変わっていることも珍しくなく、ポータブルな技術を武器に企業間を渡り歩く姿が印象的でした。昨今はAIの発展による職域の変化もささやかれる落ち着かない業界ですが、個人の技量が組織の壁を軽々と越えさせる一例と言えます。

もう1つは、私が東京大会で携わった国際スポーツイベント業界です。オリンピックは開催地が移り変わるため、その魅力に取りつかれた人々は、開催地を巡って世界を巡る「渡り鳥」のようなキャリアを形成します。夏冬の五輪からアジア大会、W杯へと、組織委員会やIOC、コントラクターなどの立場を変えながら国を渡り歩くのです。多くの組織が時限的であるがゆえに、現職に励みながら常に次の大会のポストを探し、採用側もそれを狙うという特有のサイクルがあります。先日のミラノ・コルティナ大会でも、かつての同僚たちがたくましく活躍していました。

こうした「技術」や「イベント」を軸に境界を越えていく人々の姿を思い返すと、標準化の世界もまた、官民や企業、国境の垣根を越えた多様なキャリアパスが描ける可能性を感じます。新参者の私にはまだ見ぬ景色ばかりですが、諸先輩方の背中を追いながら、この新しいフィールドでの役割を見つけていければと思います。

## ITUジャーナル

Vol.56 No.4 2026年4月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 吉田 博史

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 宮下英一、石田直子、加藤慶子

編集協力 岩城印刷株式会社

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会